

## 式 辞

本日ここ武庫川女子大学から、新たな一步を踏み出そうとしている皆さん、ご卒業おめでとうございます。心からお祝いを申し上げます。

本来であれば、この門出の時を、保護者の方々とともにお祝いしたいところではありますが、感染防止の観点から式へのご臨席についてご理解を賜ることとなりました。保護者の皆さまにはこの2年にわたり、ご息女の教育を本学に託してくださいましたことに衷心より感謝を申し上げます。

さて、本日の卒業証書・学位記の授与式は皆さんの人生において学生から社会人への大きな節目となります。そして後にきっと“この時”が時代や社会の転換点であったと記憶に残る特別な日となることでしょう。

本学で皆さんが過ごしたこの2年間は、はからずも新型コロナウイルス感染症の世界的流行という未曾有の事態とともにありました。

入学式は感染拡大防止のため、中止せざるをえませんでした。命と健康を守るためとはいえ、節目の行事を行うことができなかつたことは残念でなりません。

さらに緊急事態宣言の発出を受け、登学を禁止した1年生の前期はキャンパスに皆さんを迎えることもできませんでした。友だち作りもままならない中、オンライン授業と課題に追われ、心細い思いをした人も多かつたことでしょう。後期からは一部対面授業も始まりましたが、アメリカ分校での現地留学がオンラインに切り替わるなど、多くの方が思い描いた通りにはいかない2年間だったと思います。

ただ、そのようななかでも、オンラインでの体育祭や対面とオンライン併用のハイブリッド文化祭をはじめ、皆さんはあらゆることに創意工夫を凝らして学生時代を前へと進めてきました。前例がないこの2年の日々を過ごした皆さんは、例年の学生よりも多く悩み、戸惑い、そして考えたことでしょう。その中で積み重ねた経験と知識は必ずや力となって、これからの人生を支えてくれると確信しています。

いま社会を見渡せば、デジタル化に加え、ICTや人工知能AIの導入、そして、それに伴う大きな変革の波が押し寄せています。人の働き方は通勤から在宅やテレワークへ、住まいは都会から地方へ、これから発展する企業や仕事と、衰退する企業や仕事の峻別など、急速に社会の有り様に変化しつつあり、私たちの生き方をはじめ今後あらゆるものが加速度的に変化するでしょう。このような中、卒業する皆さんは変革する時代の転換点にトップランナーとして、社会に出ることになります。その時には、この武庫川女子大学短期大学の卒業生であることに強い誇りと自信を持ってください。

本学は、初代学院長・校祖 公江喜市郎先生、第2代学院長・日下晃先生、現学院長大河原量先生のリーダーシップのもとに、教職員、学生・生徒、保護者の方々、そして卒業生が心をあわせ協力し合い、いまや短期大学部7学科、大学は10学部17学科、大学院7研究科を有する女子総合大学に発展しています。令和元年には本学の母体となる武庫川学院の創立100年に向けた、「MUKOJO Vision」を公表し、「一生を描ききる女性力を」育むため、さらなる発展に向けて歩みを進めています。

今後、皆さんはさまざまな分野で活躍されることでしょう。そしてその先々で、成長するためのあらゆる決断の場に遭遇することでしょう。その時、勇気をもって一步踏み出すことにより、新しい未来が開けます。その連続が、「MUKOJO Vision」に謳われる「一生を描ききる女性力を」大いに育むことにつながります。

一方、皆さんは、武庫川学院の同窓会である鳴松会の会員になります。会員はいまや19万人を超え、各々が社会や家庭にあって、立学の精神や教育目標を体現しています。お互いに手を取り合い、周囲の人々に支援の手を差し伸べ、一人ひとりが個性豊かな自立した女性として日本全国、また世界各地で大いに活躍されています。

その多くの先輩の中で、国内外で大活躍中の小説家、湊かなえさんがラジオ番組を通して皆さんにメッセージをくださいました。今から27年前、実は湊さんは私の研究室のゼミ生で、彼女が卒業間近の平成7年（1995年）、1月17日早朝に阪神・淡路大震災が発生しました。当時、卒業式の開催が危ぶまれましたが、なんとか式だけは執り行うことができました。今、コロナ禍で、多くの式典が制限を余儀なくされている状況が当時と重なります。

では、湊さんのメッセージを読み上げます。

「街を歩いていると、はかま姿の学生や制服にコサージュを付けた方を見かけます。今年は卒業式ができたんだなとうれしくなります。私の時は1月に阪神・淡路大震災があり、卒業式ができるのかな、と不安でしたが、制服を着て式典が行われました。節目の行事がきちんとできたことで、学生時代が終わった、4月から社会人として頑張ろうと気持ちを切り替えられたと思っています。その時の特別感も時間とともに薄れていましたが、一昨年から続くコロナの状況で、当たり前と思っていたことが、実は当たり前ではないことをあらためて感じ、こういう行事ってできることが幸せなんだと思うようになりました。武庫女の後輩の皆様も今年は卒業式ができてよかったですね。卒業おめでとうございます。皆さんの親戚の気分でエールを送ります。春から頑張ってください。」

というメッセージです。

皆さんにはこのようにエールを送ってくれる卒業生が19万人もいるのです。これは頼もしく、心強いことです。そして、皆さんも明日からはその卒業生の一人として、研鑽を積み、後輩たちの良きロールモデルとなってください。多くの皆さんにとって学生時代は本日をもって終わりますが、むしろ皆さんの真価が問われるのは、これからの学びとそれを基盤とする生き方です。この女性活躍の時代に一人ひとりが歩みを止めることなく前進してください。卒業生の活躍は、私ども教職員全員の大きな誇りです。

最後にあらためて、保護者の皆様のお力添えに心より感謝を申し上げるとともに、卒業生の皆さんの社会でのご活躍と、ご健勝、ご多幸をお祈りし、式辞といたします。

令和4年3月20日

武庫川女子大学短期大学部  
学長 瀬口 和義

